

# STAGE 3-4

## 加須物流センター

新設 稼働中

### 竣工 DATA

竣工年月	1999 (平成11)年8月	
設計者	創元設計	
施工者	熊谷組	
施設概要	敷地面積	10,029.89㎡
	延べ床面積	18,928.57㎡
	構造	RC造一部S造4階建
	プラットホーム	密閉型高床式・13/バス
収容能力	防熱方式	外壁内防熱・吊り天井防熱
	総トン数	18,592t
	F級	10,265t
	C級	8327t
	C&F	×
	ドライ	2,238㎡
	凍結	×
	冷却設備	施工者 前川製作所
冷却設備	冷凍機メーカー	前川製作所
	主要冷凍機	高速多気筒冷凍機・スクリュー冷凍機
	冷媒	R-22
荷捌室低温化	冷却方式	分散式・直接膨張式・アルミヘアピンコイル・ユニットクーラー
	荷捌室低温化	1階+10℃・2階～4階+15℃
その他設備	ロープ式エレベーター 2基、垂直搬送機4基、移動ラック1,568PL	



加須物流センター [1999 (平成11)年] 左がドライ倉庫棟、右側が冷蔵倉庫棟。



当社最後の天井ヘアピンコイル冷却方式。



広い1階荷捌室。



当社初導入の電動移動ラック。



冷凍機

### 流通加工施設

### Technical Note

単なる原料の保管だけでなく、仕分などの流通加工が可能な衛生的な加工施設を備えている。

低温化された加工施設を作るのはかなりのコストが掛かることからニーズは高いと考えて設置したが、水を大量に使用できないこと(加工処理対応の廃水処理施設はない)や、作業を行う人を集められないことなどから、現在は大手宅配業者や通販事業者のピッキング作業、年末には当社株主優待品の発送拠点として活用されている。




### 新内陸型とは


内陸に立地され、機能的に保管倉庫よりも物流貨物に対応した機能をもつタイプの倉庫の総称。内陸では保管型の機能が要求されていたが、近年の社会情勢では物流型の機能の要求が大きくここ加須物流センターは、当初から機能は物流型を備えた装備であった。従来の内陸型を改修などで機能を流通貨物に対応させ、新内陸型となる倉庫もある。本書では、以降、内陸物流型と呼称する。

### 豆辞典

## “関東圏60Rim 構想”のスタート 新旧様々な設備を導入し

## 新しいヨコレイの幕開けだ!

 関東地区で最初の内陸型である加須物流センターが稼働しましたね。

 ヨコレイでは圏央地区と呼称しているんだけど、圏央地区進出の構想は、『東京を中心に半径60kmの円周上に新たな冷蔵倉庫が有効だと考える』と吉川会長が方向性を打ち出した【関東圏60Rim構想】の下で計画した最初の事業所進出だよ。関東圏60Rimの円周上と首都圏中央連絡自動車

道(圏央道)の計画とがピッタリ合致していて、圏央道に直交する高速道路(東北自動車道)のインター近くだった加須にまず進出したんだよ。加須物流センターは圏央地区における内陸型への初挑戦だったよね。でも小牧物流センターや鳥栖物流センターなどの旧来の内陸型とはだいぶ趣旨が異なっているので、新内陸型とも呼ぼうかな。設備的には3温度帯(F級、C級、ドライ)対応のほか、物流貨物対

応に電動移動ラックの導入を初めてチャレンジし、また、顧客の要望もあって、本格的な食品加工室も併設されていたね。物流型内陸ということで多様なニーズに対応できる設備を考えて設計したんだよ。そういえば、ここはヨコレイがR-22直膨式、アルミ管の天井ヘアピンコイル冷却方式を導入した最後の事業所になったね。

施設的にはドライ倉庫棟と冷蔵庫棟を併設するという初めての取り組みも行ったね。次の鶴ヶ島物流センターや伊勢原物流センターに様々なノウハウがしっかりとつながる事業所となったと思うね。

ただ、当初は加工食品などの物流貨物をねらったものの、周辺に大きな食品メーカーがたくさんあって、それら工場の加工用原料の保管庫になっちゃったけどね。

後日にはなるが、解凍機の導入、トラック電光掲示板システム、C級からF級へ変更、NH<sub>3</sub>/CO<sub>2</sub>ニュートン(前川製作所製)導入、荷捌室の低温化と設備の変更や新しい機械などを導入しているよね。

## column 関東圏60Rim構想

冷蔵倉庫は、昔から市場や港と貨物の集まる所に進出するのが常識であったが、吉川会長がある業界の集まりで、運送会社の社長から「皇居を中心に半径60kmの円周上でなお且つ近くに橋が無い立地であるならば、港湾地区から一往復出来る」との話があった。そこでこの地域に進出することを思い付き調査してみると概ね半径に合致する「首都圏中央連絡自動車道(圏央道)」の構想があり、これに直交する高速道路の立地に進出することを決める。

当初は新発想ゆえ予想通りにはいかなかったが、最近の世の中の社会変化や物流ドライバー不足などを鑑みると理にかなった立地である。

